様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 １４ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：若手研究
研究期間：2022～2023
課題番号：２２Ｋ１３２３９

研究課題名（和文）エジプト第二中間期における葬送儀礼の再構築とその戦略性の復元

研究課題名（英文）Strategic Performance of the Funerary Ritual in the Second Intermediate Period in Ancient Egypt

研究代表者
山崎　世理愛（Yamazaki, Seria）

早稲田大学・文学学術院・講師（テニュアトラック）

研究者番号：５０８４４１６４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、古代エジプト社会における葬送儀礼の変化と再構築というテーマのもと、死者を神と同一視するために重要なアイテムである装身具を用いた葬送儀礼の変遷を解明することであった。 分析の結果、中王国時代末期・第二中間期における理想的な装身具のセットには、それまでの伝統を継承するものと新たに主要品目となるものが混在していること、そして理想的な装身具の実物はとくに社会的地位の高い被葬者が所有していたことが判明した。上層の人びとが社会的地位の高さを強調しそれを維持するうえで、意図的な差異を与えようとした戦略的な結果であると考えられる。その時々の社会的な必要性に応じて儀礼は再構築され続けたのである。

研究成果の学術的意義や社会的意義
古代エジプトの儀礼研究は、宗教文書に依拠し過度に意味論的な解釈がなされる傾向があった。しかし本研究は、図像・文字資料、考古資料をバランスよく利用し、中王国時代末期から第二中間期の社会における葬送儀礼を構造的に検討する新たな研究として位置付けられる。また、儀礼祭祀は実際には社会的行為としても位置付けられるが、これまで古代エジプトの儀礼祭祀は精神文化という文脈のなかで言及される傾向が強く、そのときどきの社会との関係や相互作用についてはあまり語られてこなかった。当時の「社会」における儀礼の実践をテーマとしている本研究は、この点においても学術的意義をもつといえる。

研究成果の概要（英文）：This study elucidated how jewelry pieces were used in the funerary ritual during the Middle Kingdom and after. It became clear that jewelry for the ritual is also represented on the rishi coffins from the Second Intermediate Period and on the wall paintings from the New Kingdom tombs; however, the assemblages of objects seem to be altered from the object friezes in the Middle Kingdom. Specifically, jewelry pieces associated with the royal insignia offering were not common during the Middle Kingdom; however, they became very important in the end of the Middle Kingdom, the Second Intermediate Period, and the New Kingdom as evidenced in the rishi coffins, wall paintings, and three-dimensional jewelry. Therefore, it is possible that each society changed strategically the ritual as needed.

研究分野：エジプト学

キーワード：古代エジプト　中王国時代　第二中間期　葬送儀礼　装身具

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

古代エジプトの年代区分として、「～王国時代」とその間に位置付けられる「～中間期」という名称が使われてきた。中央集権が強化された王国時代とは異なり、中間期には政治的混乱がみられ、それが副葬品など物質文化にも反映されたと考えられている。しかし、これは文化の完全な衰退を意味するわけではない。中王国時代と新王国時代の間に位置する第二中間期には、中王国時代の中央の伝統と地方の伝統が融合し、新たな埋葬形態が生まれたと言われている。特に高位の人々の埋葬では、中王国時代までの価値規範に当てはまらない副葬品の選択性が認められる。そして、新王国時代になると、中間期に展開した埋葬形態を下地としてさらなる変化が見られる。安定した社会で構築されてきた伝統が中王国時代のおわりから第二中間期において何らかの形で変わり、それが中央集権の強化された続く新王国時代における文化の礎となったのである。つまり第二中間期とは、文化が衰退した暗黒期ではなく、それまでの伝統が様々なレベルで解体され再構築されるいわば変化の源として捉えるべき時期と言える。しかしながら、これまで第二中間期に関する研究は、編年や異民族との関係の検討が主要で、中王国時代の伝統が第二中間期でいかに変化したのかという議論は乏しい。また、続く新王国時代にみられる革新や葬送文化については研究が盛んであるのに対して、中王国時代のとくに末期から第二中間期にかけてみられる伝統の継承と変化に関しては研究の蓄積が薄い。その結果、葬送文化の変遷に関しては、王国時代間の比較という視点が強く、実際に大きな変化が生まれた第二中間期との比較が抜けている状況にある。以上をもとに本研究では、中王国時代の葬送文化が中王国時代末期および第二中間期でいかに変化したのかという問いを立て、当該期の埋葬を対象に、副葬品の中でも装身具やそれらを用いた儀礼に焦点を当てた分析をおこなうこととした。

これまでは、中王国時代における器物奉献儀礼（食糧以外の器物を死者に捧げる葬送儀礼）に該当する①装身具を死者に捧げる儀礼（以下、「装身具奉献儀礼」）について、考古資料と棺に描かれた図像・文字資料を対象に研究を進めてきた。その結果、この儀礼は中王国時代に確立され、特定の器物を繰り返し被葬者に捧げることが意図された構造が棺上と実際の墓内で形成されていたことを明らかにした。さらに、②装身具による死者を保護する儀礼の検討もおこなった結果、社会的地位がそれほど高くない被葬者に多種多様な護符が副葬される傾向があることが分かった。しかし、これまでは中王国時代を対象としてきたため、これらの儀礼が中王国時代末期および第二中間期の社会でどのように展開するのかは不明であった。儀礼を実践として捉えるならば、それはそれぞれの社会の必要に合わせて再構築される戦略であるとされる。したがって、安定していた中王国時代から社会の変化が起きる中王国時代末期および第二中間期においては、当時の状況や必要に合わせて葬送儀礼も大きく変容させられたと考えられる。つまり、政治的混乱による中央と地方の関係の瓦解や中心地の移動、異民族の流入といった事態に際して、人々は戦略的に儀礼の規範や行為自体を変容させた可能性がある。これはアイデンティティと強く結び付く装身具を用いた儀礼に特に大きく影響し、なかでも儀礼として確立されて間もない「装身具奉献儀礼」は再解釈されやすかったと推測される。こうした儀礼の変容とその戦略性の解明は、政治的安定期の研究だけでは十分に達成することができない。そこで、あえて中王国時代末期～第二中間期の装身具を用いた葬送儀礼を対象に分析を行い、最終的に安定期の中王国時代と比較する本研究の着想に至った。

２．研究の目的

中王国時代は古王国時代の中央集権が崩壊し、地方有力者が乱立した時期を経て、エジプトが再統一されて始まる。ただ、すぐに強力な中央集権が再度確立されたわけではなく、いまだ権力の強い地方有力者に対しては、教育などを通じて緩やかに且つ文化的に支配していった。そして、漸次的に王権は強化され、中王国時代後期になると中央集権が確立されることになる。しかし、次第にその中央集権も弱まり、再び社会が混乱する中王国時代末期～第二中間期を迎える。本研究は、こうした歴史的背景のもと装身具を用いた儀礼がいかに行われたのかを検討することが目的であった。つまり、図像・文字資料と考古資料を用いて、中王国時代末期および第二中間期における葬送文化について、とりわけ儀礼的側面がそれまでのものおからいかに変容したのかを明らかにするために、中王国時代に確立された装身具奉献儀礼が中王国時代末期・第二中間期の社会に合わせてどのように変容したかという点の解明を目指した。

３．研究の方法

中王国時代との比較をするために、まずは当該期の装身具を含む器物奉献儀礼の構成を改めて整理した。器物奉献儀礼は棺への描写と実物の副葬という大きく２通りの方法で行われ、両者には時期差が見られる。まず、中王国時代前期の箱型棺内面には、オブジェクト・フリーズと呼ばれる装飾帯が見られ、被葬者に捧げられる装身具を含むさまざまな器物が図像と文字で表された。そして、これらが三次元化して中王国時代後期を中心に実際に副葬されるようになる。第二中間期には、人型棺への描写と少数ながら実物が見られる。器物奉献儀礼は、捧げられる器物のは種類やその起源によって、「私的器物奉献儀礼（private object ritual）」「王室の器物奉献儀礼

（royal object ritual）」「王権の象徴奉献儀礼（royal insignia offering）」の３種類に分けられる。しかし、すべての器物がオブジェクト・フリーズに描かれたり実際に副葬されるわけではない。３種類の器物奉献儀礼が必ずしもバランスよく取り入れられているわけでもない。分析においてはまず 89 点の棺に描かれた 1000 点を超える器物を同定し描写傾向を分析した。その結果、中王国時代は「私的器物奉献儀礼」と「王室の器物奉献儀礼」に属する器物が地域・社会的地位関係なく普遍的にオブジェクト・フリーズとして描かれたいっぽう、「王権の象徴奉献儀礼」に属する器物の描写頻度は極めて低く、地方のごく一部の棺に限定的であることが判明した。

以上をふまえ、続いて装身具を用いた葬送儀礼と密接に関わる第二中間期のリシ棺に描かれた図像資料を集成・整理し、図像を同定した上で装身具の描写傾向パターンを抽出した。また、装身具のなかでも襟飾りの「種類」に注目しその変遷を追った。この結果を上記の中王国時代の傾向と比較し装身具奉献儀礼の変容を考察した。さらに、考古資料も対象とし、中王国時代末期・第二中間期において墓から出土した実際の装身具についても検討していった。こうした方法によって、中王国時代末期・第二中間期には「王権の象徴奉献儀礼」の重要性が高まり、とくに第二中間期にはその図像表現が頻繁にみられるが、実物の所有者は社会的地位の高い一部の被葬者に限られるということがわかった。

４．研究成果

中王国時代末期および第二中間期にみられる器物奉献儀礼の変化として、中王国時代には専ら「私的器物奉献儀礼」と「王室の器物奉献儀礼」が行われたが、中王国時代末期・第二中間期には「王権の象徴奉献儀礼」に属する器物が主要品目に加わるということが判明した。「王権の象徴奉献儀礼」に属する器物（図 1）は装身具や装身具に用いられるシンボルで構成されている。すなわち、装身具奉献儀礼がこの時期に大きく変化したということである。

儀礼とは、なんらかの宗教的な側面を持つとともに、その実践は本質的には社会的な規範や規則性を作り出すものである。上下関係や権力を再生産し維持するうえで、儀礼の実践は社会において欠かせない。そして、その社会に属する人々が無意識のうちでも有意味と認める限り、その儀礼はそうした再生産において機能し続けるのである。これをふまえて中王国時代末期および第二中間期の装身具奉献儀礼を見てみると、おおよそ以下のことが指摘できる。それは、まず中王国時代末期に「王権の器物奉献儀礼」の重要性が高まり、第二中間期になるとますます重要視されこの儀礼を通して社会が再生産されていくことになる。中王国時代とは異なる社会の状況に応じて儀礼が再構築された結果であると考えられる。中心地の移動や政治的混乱という中王国時代末期・第二中間期の状況下で改めて秩序を確立するためにも、装身具奉献儀礼は重要な役割を担い続けたと考えられる。ただしそのようななかでも、死者のオシリス神化と密接に関わる人型棺への描写や描かれる器物の組み合わせという点において、装身具奉献儀礼の宗教的背景や構造自体大枠は維持し続けていると言える。

第二中間期に主要セットに加わる「王権の象徴奉献儀礼」に属する装身具にかんしては、中王国時代の中部エジプト地域で頻繁に用いられたものであった。特定の襟飾りを含め、第二中間期に新たに理想的なセットを構成するようになった装身具は、すでに中王国時代の器物奉献儀礼で見られたが、主要品目になることはなかった。第二中間期に器物奉献儀礼は再構築され、それまでとは異なる装身具がその重要性を高めたのである。実際の考古資料の検討からは、こうした理想的な装身具は王族などとりわけ社会的地位の高い被葬者が所有していたことが判明した。中王国時代末期および第二中間期において、社会の上層に位置する人びとが社会的地位の高さを強調しそれを維持するうえで、葬送儀礼やそこで必要とされる品々に意図的な差異を与えようとした戦略的な結果であると考えられる。その時々の社会的な必要性に応じて、装身具を中心とする器物奉献儀礼は再構築され続けたのである。

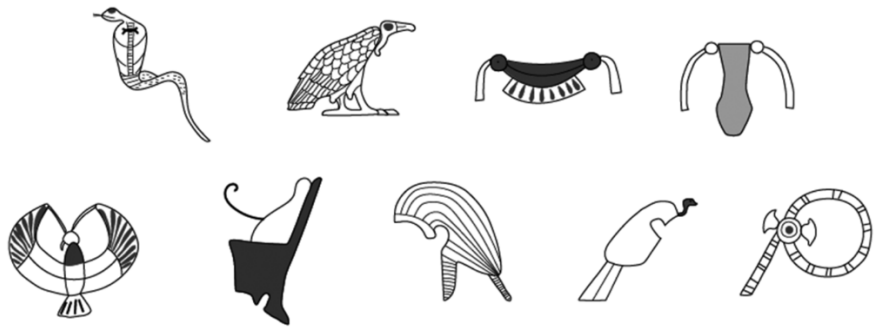

図１．「王権の象徴奉献儀礼」に属する器物の種類

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 山崎世理愛	４．巻 65-1
２．論文標題 エジプト中王国時代における器物奉献儀礼の変容とその社会的背景	５．発行年 2022年
３．雑誌名 オリエント	６．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 山崎世理愛	４．巻 783
２．論文標題 古代エジプトにおける器物奉献儀礼の変化	５．発行年 2023年
３．雑誌名 月刊考古学ジャーナル	６．最初と最後の頁 33-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 山崎世理愛
２．発表標題 エジプト中王国時代末期の葬送儀礼にみられる伝 統の変化とその継承
３．学会等名 日本オリエント学会第 64 回年次大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 山崎世理愛
２．発表標題 エジプト中王国時代における襟飾りを用いた葬送儀礼の展開
３．学会等名 日本西アジア考古学会
４．発表年 2023年

１．発表者名 Seria Yamazaki
２．発表標題 Jewelry in the Funerary Ritual from the Middle Kingdom to the Early New Kingdom
３．学会等名 XIIIth International Congress of Egyptologists（国際学会）
４．発表年 2023年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関